



日本教職員バドミントン連盟
理事長 吉川 隆明

私儀、今年度より日本教職員バドミントン連盟の第8代理事長に就任することになりました。2002年度より本連盟の常任理事となり、以降教職員大会における競技運営に関わってまいりました。はじめの頃は、国際審判員の故今井正男先生や高橋英夫現会長のご指導によって、(公財)日本バドミントン協会による現行のレフェリー制度が始まる前より、競技会の大会運営のいろはについてご教示ご指導していただきました。また、連盟設立50周年、60周年事業を経て、多くの先達の方々のご努力下、教職員連盟が興隆してきたことを忘れることはありません。途中、コロナ禍で教職員大会が中止になったこともありました。各都道府県連盟の加盟費や個人会員の皆さまのご支援ご尽力のもと、3年後には無事に大会が再開されたことも強く印象に残ったできごとでした。お礼申し上げます。

私と教職員連盟との関わりは、1999年の青森大会からはじまった派遣審判員制度による審判経験からでした。これ以前は一種大会でありながら選手が立ちながら敗者審判をすることもあり、これを改善する必要から生まれた制度が導入された年でした。ここに集われたアンパイアの方々は、国際審判員や後にオリンピックの主審を輩出する技量の方々が出て、お互いに刺激しつつ審判技術を切磋琢磨していく場でもありました。毎年集まった派遣審判員は、開催県である地元の審判員の見本となり、審判技術の普及活動としても大いに役立ってきました。その一審判員からはじまり、大会運営を支える側であるレフェリーを昨年度定年で終えると同時に、理事長就任の声がかかったのです。少し躊躇いたしましたが、これまでの経験を経てバドミントンを通じてお世話になりました皆様にご恩をお返しする上でも引き受けさせていただきました。

年月が進むにつれ、バドミントン界も社会の変遷、時代の流れに対応しルールの改正や競技運営方法に工夫がみられています。日本バドミントン協会の組織体制も今年から一部改変し、広く意見を集めるようになりました。連盟の理事メンバーもいくつかの合同委員会に加わっていますが、積極的に働きかけをしていきたいと思っております。本連盟も新たな理事を迎え、教職員大会の参加資格や申込みのあり方についての改訂などの取組に励んでおります。至らないところがございますが、これまでの事業を継承しつつ、高橋元理事長(現会長)や歸山前理事長の活動方針を踏襲し、連盟の活動の持続的な発展のために尽くしてまいりたいと存じます。

最後になりますが、この挨拶文を寄稿する前に、第64回全日本教職員バドミントン選手権大会が岡山市で開催されました。おかげさまで持ちまして、過去最大人数の参加者を集っていただき、盛会に大会が催されました。予想を上回る参加者であったため競技の終了時間が遅くなり、ご迷惑をおかけしたかと存じますが、おかげさまで皆様のご協力のもと、大きなけが人や事故もなく無事に終了いたしました。開催県の岡山県バドミントン協会、岡山県教職員バドミントン連盟、並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど更にお願ひ申し上げご挨拶といたします。

巻頭言

総会議事録

一、令和六年度事業報告

令和六年度決算報告

令和七年度予算案

令和七年度事業計画案

一、連盟規約の改訂について

一、部活動指導者及び教育

委員会職員の会員資格

の委細について

一、教職員大会団体戦参加費の

第六十四回大会資料

今大会を顧みて

レフェリー報告

令和七年度表彰者一覧

総合順位

成績表

団体戦 トーナメント表

個人戦 トーナメント表

追悼 関場先生の思い出

表紙の人